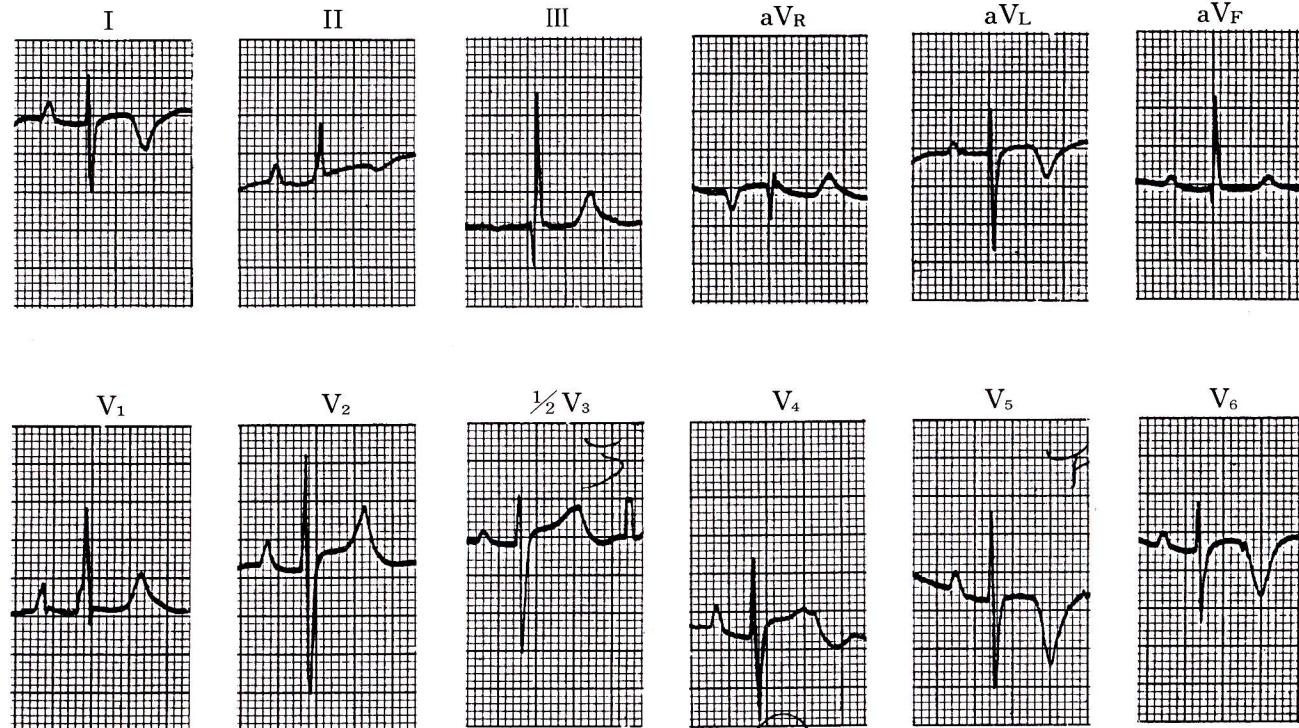


症例 11

● 11歳 男

● ファロー四徴症根治術後の患者.



- 1) V₁の尖鋭な陽性P波は何か.
 - 2) V₁のR/S > 1, V₆のR/S < 1は何を意味するか.

右心性P波, 右室肥大, 非特異的心筋傷害, PQ延長

V_1 のP波は高く尖鋭で(3.0mm),右心性P波の基準を満たしている。一方IIのP波は尖鋭であるが, 2mmで肺性P波の基準は満たしていない。PQ時間は0.24秒と軽度延長を認める。前額面電気軸は+104°で右軸偏位傾向を認める。 V_1 のR波は13mmで $R/S > 2$, かつ V_6 の $R/S < 1$ で右

室肥大がある。しかし, 右側胸部誘導に右室肥大に伴うストレインパターンのST-T変化は認められず, I, aVL, V_5 , V_6 に深い陰性T波を見る。本症例はファロー四徴症であるが, ファロー四徴症では右室肥大にもかかわらず, 右側胸部誘導のT波が陽性のことが多い。

MEMO

〈肺性P波, 右心性P波〉

36

II, III, aVFの高く尖鋭なP波(≥ 2.5 mm)を肺性P波(P pulmonale)といい, V_1 の尖鋭な陽性ないし2相性のP波(陽性部分の高さ ≥ 2 mm)を右心性P波(P

dextrocardiale)という。いずれも右房負荷(右房肥大)の所見であるが, 両者は必ずしも同時にみられるとは限らない。